

協会だより

第41号

発行日：2017年 3月 1日
発行人：会長 大熊 幸雄
連絡先
〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町11-1 3階-9階
さいたま市市民活動サポートセンター メールボックスA82
電話：050-3610-1948
e-mail：sai-eca@soleil.ocn.ne.jp
ホームページ：<http://www.saieca.com/>

No41 本号のラインアップ

会長挨拶	1
第33回環境保全講習会「日本のエネルギーの現状と将来」	2
「さいたま市環境フォーラム」「富士見ふるさと祭り」に参加	3
環境研修の開催結果	4
「家にある化学物質の使い方」第7号 虫よけ剤	5
ECU 活動状況・協会会員活動報告・定期総会案内・編集後記	6

◇会長あいさつ

大熊 幸雄

昨年、災害の多い年でした。4月に発生した熊本県を震源とする最大震度7の地震、6月に発生した西日本を中心とする大雨、10月に発生した阿蘇山の爆発的噴火、12月には新潟県糸魚川市の大規模火災などが記憶に残ります。そして、秋の長雨と北海道に3つの台風上陸などは、地球温暖化の影響があるのでしょうか。

災害の多い我が国では、それぞれの地域において、非常時の備えを考えておく必要があります。東京オリンピック・パラリンピックを控え、首都圏では東京集中の傾向が進んでいます。直下型地震が想定されるなか、これで大丈夫なのか、一抹の不安を覚えます。

気候変動対策については、COP21で締結されたパリ協定が発効されましたが、1月20日にトランプ氏が大統領に就任して以来、米国が協定を離脱する現実味が増して来ました。更に、環境保護庁長官の交代やEPA予算の削減などにより、米国の環境政策が大幅に転換され、世界の環境政策に悪い影響を及ぼす恐れがあります。

東京都豊洲市場の移転問題では土壌汚染、地下水汚染が問題となっており、リスクコミュニケーションの会合で一緒にした横浜国立大学の浦野教授がテレビにコメンテーターとして登場し、関心が高まっています。安心安全の観点から移転の時期が不透明になっていますが、汚染については、封じ込めなどの技術を講じることによりクリアは可能であると思います。あとは感覚的に安心出来るかどうか課題となるでしょう。また、環境アセスメントについては、事業者である知事と審査を行う環境の知事とふたつの立場がある訳ですが、環境影響評価書に知事が記述した盛り土対策の一部がなされていない事実が明らかとなり、大変、驚きました。環境アセスメントは、情報公開と住民参加の理念を基本とする手続きが定められていますが、公表された対策を知事がしていないとは考えられないことです。どうして、このようなことが起きたのか、事実を明らかにして欲しいと思います。

私ども、環境カウンセラーは相対的なリスクをどの様に考え、伝えて行くか、大きな役割と使命を担っております。

◇ 第33回環境保全講習会

「エネルギーの今と将来を考える

～CO₂の大幅削減は可能か～

日 時 2016年10月29日(土) 13:30～16:30

場 所 さいたま共済会館 505会議室

参加者 30名

〈プログラム〉

1 基調講演

「日本のエネルギーの現状と将来 ～パリ協定と今後の取り組みの展望～」

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所 研究理事 工藤拓毅 氏

2 質疑応答・ディスカッション



基調講演では、工藤先生に豊富で具体的なデータに基づき、丁寧にご説明いただいた。

(1) エネルギーの現状



エネルギー需要は GDP の伸びと共に増大しているが、電力化が進んでおり、そのための変換ロスが大きい。供給は 1973 年に 70%超の石油のシェアが徐々に低下し、現在は 41%。それに替わり天然ガスや原子力が増大してきたなか、東日本大震災によってエネルギー構造が大転換。原発が停止し、石炭が増え、天然ガスもさらに増大。エネルギー効率の指標である原単位では、製造業は大幅に低下、家庭と旅客は増大し、ここ数年でやっと低下傾向を示した。家庭部門では電気への依存が進み、待機電力の消費も以外と大きい。家電製品の省エネは進んでいるが、例えば冷蔵庫が大型化することにより、消費量の大幅な低下につながらない。旅客部門は、乗用車保有台数の増加の影響が大きく、近年になり小型化やエコカーが普及し原単位が低下してきた。

(2) エネルギー政策・国際動向

今後の視点としては、①需要に応じたエネルギー供給の確保、②エネルギー安全保障、③環境・低炭素社会に向けた構造転換が大事。とにかく「安定供給」という時代から徐々に変化し、現在のエネルギー基本計画では「安全性+安定供給+経済性+環境+国際性+経済成長」となった。

日本は、石油(天然ガス)は中東依存度が高く、安全保障についてシーレーンの問題を抱えている。エネルギー自給率は 20%近くから、東日本大震災後には 5%に低下。しかも価格が上がっている。これに加えて、CO₂ 排出量原単位という視点が加わった。

再生可能エネルギーは固定価格買い取り制度(FIT)により普及が加速。それでも再エネ率は H23: 水力 9.0%+その他 1.4%から H26: 水力 9.0%+その他 3.2%となったにすぎない。太陽光発電は FIT により特に拡大したが、系統安定化という課題が発生している。

こうしたなかパリ協定が合意。歴史的な合意である反面、法的拘束力が弱いという指摘もある。特筆すべきはパリ協定が継続的な目標・取り組み強化に重点を置いた枠組みであることである。

(3) 今後の日本の方向

日本が目指すエネルギー・地球温暖化対策目標は非常に意欲的・挑戦的なもの。エネルギーを輸入に頼っており、ものづくりで経済が成り立つ日本では、経済性に留意したエネルギーの適切な組み合わせが重要だ。中長期的な地球温暖化対策は、企業のみならず家庭部門が不可欠。温室効果ガスの大幅削減には全ての国・分野での取り組みが必要であり、特に技術革新・普及が重要。今後の戦略は、国際協力を推進して技術開発や技術移転を図ることに重点を置くべきである。

基調講演後の質疑応答・ディスカッションでは、多くの質問や意見があり、工藤先生からの丁寧な回答もあり、有意義な意見交換がなされた。

今回の環境保全講習会は、参加者の方々へのアンケートでは、回答 22 人中、とても参考になった 15 人、参考になった 7 人と有意義なものであったという評価をいただいた。(星野 弘志)

◇ さいたま市環境フォーラムに参加

日時：平成28年10月7日（金）・8日（土） 午前10時から午後4時まで
会場：さいたま新都心駅 東西自由通路
主催：さいたま市環境フォーラム実行委員会、さいたま市、さいたま市教育委員会
後援：環境省関東地方環境事務所、さいたま商工会議所
さいたま市環境保全連絡協議会

第16回さいたま市環境フォーラムが、2日間にわたり、さいたま新都心東西自由通路で開催され、例年どおり展示ブースを開設し、参加しました。

今回は、4つのブロックに分かれ、全体で23のブースが設けられました。



当協会のブースでは、前年と同じく白熱電球とLEDの消費電力を手回し発電機の力加減で実感できるものや白熱電球とLEDなどの光量や発熱を比較する展示をしました。新たに顔写真を見て日本人のノーベル賞受賞者を当てるクイズ「私は誰でしょう」を追加しました。また、手回し発電機を廻して電磁ベルが鳴ると、表情豊かな反応を示していました。



併せて、協会の化学物質検討委員会で作成した「家にある化学物質の使い方シリーズ」の小冊子や協会パンフレットなどを配布するなど、啓発活動を実践する貴重な機会となりました。

（大熊 幸雄）

◇ 富士見ふるさと祭り

平成28年10月22日（土）富士見市文化の杜公園、富士見市市役所を中心に9時00分から15時30分「富士見ふるさと祭り」が開催されました。ここにSECAが初めて参加しました。富士見市では毎年10月、『富士見ふるさと祭り』を開催しています。この祭りは市が従来行っていた『産業祭』、『環境フェア』、『市民まつり』の3つのお祭りをひとつに結集して、平成17年から始まりました。

ここに大熊会長、金子玲司さんと中村が担当致しました。SECA活動紹介、エコ関連展示、NOxの簡易測定実演を行いこれが好評で、SECA展示に予想以上の来客がありました。



（中村 章）

◇ 環境研修の開催結果

2016年11月21日(月)鴻巣市内を中心に環境研修を実施し、10名が参加しました。
午前10時に鴻巣駅の改札に集合。

まず、駅から徒歩3分の(株)アサヒコミュニケーションズを訪問。新井正敏会長から「印刷物ができるまで」の説明を受けた後、工場を見学。整理整頓が行き届き、彩の国工場に指定されているだけあって、見学者にも配慮されたデザインの事務室や作業場では、ドイツ製の印刷機が活躍していました。



ランチは本町5丁目の長木屋で鴻巣の新名物の「川幅うどん」などを堪能しました。

午後は会員の川島さんの先導で高崎線の陸橋を渡り、荒川の御成橋の袂にあるNPO法人鴻巣こうのとりを育む会が造成しピオトープ施設を見学。いつかコウノトリがこの場所にエサを求めて舞い降りることを目指して管理しているそうです。

その後、市内に戻り、NHKの大河ドラマ「真田丸」で吉田羊さんが演じた小松姫ゆかりの勝願寺へ。広い境内や荘厳な山門や本殿など徳川家ゆかりの寺を堪能。さらに中山道を南下。地元の製麺店などを覗きながら鴻巣市産業観光館「ひなの里」へ。様々な雛人形を眺めながら休憩。最後は北上し、鴻巣の名の由来となるコウノトリ伝説のある鴻神社を参拝。こうして中山道鴻巣宿の歴史散歩を満喫しました。

締めは駅前食堂で懇親会。今回は全行程を徒歩で回り、環境研修ならぬ健康研修となりました。



(大熊 幸雄)

◇「家にある化学物質の使い方」第7号 虫よけ剤

化学物質検討委員会では「家にある化学物質の使い方シリーズ」を作成しています。これまで第1号「漂白剤」から第6号「消臭剤 ～芳香消臭剤を中心に～」までを発行しました。

今回の第7号は「虫よけ剤」を取り上げました。平成27年に代々木公園から感染が広がったデング熱以来、生産量、使用量が増えている虫よけ剤に焦点をあて、虫よけの仕組みや取扱い上の注意などと共に、特にイメージが先行し、そうした製品へ過度に依存することの問題点などもQ&A方式で紹介しています。

第1号から第7号までを含めて、皆様のご意見を反映して、さらに良いものにしていきたいと思います。ご意見やご感想をぜひお寄せください。

<質問の例>

Q「虫よけ剤」とはどのようなものですか？

Q「虫よけ剤」にはどのような薬剤が使われていますか？

Q 使用するときにはどんな注意が必要ですか？

Q 購入時の注意点はありますか？

Q 保管する時の注意点はありますか？

Q いらなくなったらどうしたらいいのですか？

参考資料

- 1 自分の家の中のチェックシート、
- 2 疑問点の調べ方
- 3 検索サイト



(小坂 久仁子)

虫よけ剤の冊子作成までの検討段階で、内容を確認した資料の一部をご紹介します。

- かんたん化学物質ガイド(環境省)
<https://www.env.go.jp/chemi/communication/guide/>
- NITE 身の回りの製品に含まれる化学物質シリーズ 家庭用防除剤
<http://www.nite.go.jp/data/000010747.pdf>
- H18 年度殺虫剤等に関する使用実態調査(環境省)
<http://www.env.go.jp/water/report/h19-06.pdf>
- 「平成26年度殺虫剤等の消費者製品に関する実態等調査業務」報告書(環境省)
<http://www.env.go.jp/chemi/chemi/bicidesurvey/%E5%B9%B3%E6%88%9026%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E6%AE%BA%E8%99%AB%E5%89%A4%E7%AD%89%E3%81%AE%E5%AE%9F%E6%85%8B%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8.pdf>
- 厚労省検疫所 デング熱
<http://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name33.html>
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/238-dengue-info.html>

◇ ECUの活動情報（ホームページから転載）

第7回環境カウンセラー全国交流会を開催

平成28年11月19日、20日の両日、福岡県北九州市で ECU とふくおか環境カウンセラー協会主催の第7回環境カウンセラー全国交流会が開催されました。

19日は北海道からの参加も含め約100名の参加者を得て、環境カウンセラーでもある垣迫裕俊北九州市教育長の基調講演、全国の環境カウンセラーの活動事例報告、夕刻からは、矢野郁子さんの草笛演奏も交えさらに親密な交流の場としての懇親会が催されました。

福島第一原子力発電所を視察（平成28年12月12日）

ECU が主催して、小林料顧問、佐々木進市理事長、今井秀雄副理事長、藤本晴男副理事長、佐藤孝史副理事長、環境カウンセラーESD 学会寺木秀一会長、依田浩敏副会長（兼副理事長）など環境カウンセラー19名の視察団が、福島第一原子力発電所（the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant）を視察しました。1号機から6号機まで全部を外部から間近に視察しました。

◇ 情報交差点

協会会員の丸岡巧美さんが、一般社団法人 日本電気協会の澁澤賞を受賞しました。



協会会員の内藤定芳さんが「秩父地方の巨樹名木」を出版しました。質問、注文は内藤さんまで

snaito@sannet.ne.jp



（大熊 幸雄）

◇ 平成29年度定期総会開催の予定

日 時；平成29年5月20日（土）13時30分～16時

会 場；埼玉会館 5C会議室

内 容；平成28年度事業報告、決算報告、監査報告

平成29年度事業計画、予算案

理事、監事の選任

定款の変更（NPO法の改正に伴う公告の方法）

◇ 編集後記

中村 章

環境カウンセラー制度転機にさしかかっておりますが、近頃SECAとしての環境展示が増えて参りました。また会員の皆様が活動する場も増え始めました。当協会の「環境教育カタログ」や「協会便り」の読んで下さる方が増えてかと思えます。

協会員皆様の活動事例を更に具体的に掲載していきたいと思えます。